

		調査統計 (記述統計) (紀元前) 旧約聖書「民数記(numbers)」 ユダヤ人成人男子の人口調査 (紀元前) ローマ帝国「戸籍検察官」"Censor (ケンソル)" → "Census" (日本) 「庚午年籍 (こうごねんじゃく)」天智天皇九年(670)
	ルネッサンス 13C-15C	
1600	関ヶ原の戦い 1600	
	デカルト 1596-1650	--- 統計学の考え方 --- グラント(1620-1674)「死亡表に関する自然のおよび政治的諸観察」 ～人間の出生, 死亡は一定の自然法則性を有している.
1700	ニュートン 1643-1727	--- ドイツ国状学派 --- アッヘンワール(1719-1772) "統計学(Statistik)"を命名("state"→ "statistics") 社会の実証的観察, 調査統計
		ベイズ(1702-1762)～"ベイズの定理"
1800	産業革命 1760-1830	ガウス(1777-1855)～"最小二乗法", "正規分布 (ガウス分布)" ルジャンドル(1752-1833)～"最小二乗法"
		--- 近代統計学 ---
	ダーウィン 1809-1882	ケトラー(1796-1874) ベルギーで「中央統計委員会」を設立. ～個人に個人差というばらつきはあってももとも少しば観察されるのは"平均"である. 大量観察によって法則性が導き出される.
	黒船来航 1953	ゴールトン(1822-1911) 生物の遺伝現象の数量的研究 ～"相関", "回帰", の概念を確立. "優生学"の提唱. ピアソン(1851-1936)～"統計的推測", "相関", "母集団", "相関係数", "カイ二乗検定"
1900	日露戦争 1902-1905	--- 現代統計学 --- ゴセット(1876-1937)～"スチューデントの t 分布" フィッシャー(1890-1962) 「研究者のための統計的方法」, 「実験計画法」 ～無限母集団からの標本としてのデータ～部分が正しく選ばれていれば 全体を知ることが可能. "推定", "仮説検定", ベイズ統計学の排斥.
	太平洋戦争 1941-1945	日本の第一回国勢調査(1920)「センサス節」 コンナ調査を何にする, 統計でいろいろ調べて考える, ドッコイ, よい政治の基にする, 知れた結果が種となり, 我が国の政事を改め民福や, ドッコイ, また国利の花が咲く.
		サベジ(1954-)～主観確率, ベイズ統計の復活
2000		赤池弘次(1927-)～赤池情報量基準(AIC)